

第1章

静岡県のすがた

1 静岡県のすがた

○県、市町の成り立ち

現在の静岡県にあたる地域は、江戸時代には、幕府の直轄地、旗本の知行地、諸大名の領地などが複雑に入りこんでいた。

明治4年7月の廃藩置県の時点で、現在の静岡県には菰山県(伊豆)、静岡県(駿河、遠江)、堀江県(浜名湖北部)の3県があったが、同年11月、菰山県は足柄県の一部となり、遠州には新たに浜松県ができた。

そして、明治9年4月の足柄県廃止に伴い、旧伊豆の国が静岡県と合併したのに続き、同年8月21日に静岡県と浜松県が合併したことにより、現在の静岡県が誕生した(現在条例により8月21日は「県民の日」と定められている)。

市制・町村制は、明治22年に施行され、同年に静岡市、44年に浜松市、大正12年に沼津市が誕生した。

昭和20年に297あった市町村はその後合併が進められ、県西部12市町村の合併による新「浜松市」の誕生(平成17年7月1日)など平成の大合併があり、さらに、平成22年3月には芝川町と富士宮市、新居町と湖西市の合併により、23市12町の35市町(令和7年4月1日現在)となっている。このうち、静岡市と浜松市は政令市である。

○地理

静岡県は、日本のほぼ中央に位置し、太平洋に面している。東西約155km、南北約118km、約7,777km²(令和7年1月1日現在)の面積を有する。

東 端	熱海市初島東端
西 端	湖西市西端
南 端	下田市神子元島(みこもとじま)南端
北 端	静岡市葵区田代間ノ岳(あいのだけ)北端

本県南側には、遠州灘、駿河湾、相模灘に沿った約500kmの海岸線を、北側には富士山など3,000m級の山々からなる山岳地帯を有している。主な河川としては、天竜川、大井川、富士川があり、下流部に肥沃な土地を形成している。

○気候

平年値をみると、平均気温は概ね 16～17℃と温暖で、降水量は 1,800～2,300mm と、全般的には温暖な海洋性気候である。冬は乾燥した晴天の日が多く、雪は平地ではあまり降らない。（※平年値：1991～2020 年の 30 年間の累年平均値。）

静岡県の気象(令和 6 年)

	静岡	浜松	三島
年平均気温(℃)	18.7	18.4	18.0
年間降水量(mm)	3,754	2,996	2,680
年間日照時間(時間)	2,246	2,313	2,094

出典：気象庁ホームページ 過去の気象データ検索

(<https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/etrn/index.php>)

○人口

県内人口は 3,633,202 人で、総世帯数は 1,480,969 世帯、人口密度は 467.2 人/km² で、1 世帯当たりの人員は 2.40 人であった(令和 2 年国勢調査)。

○産業

静岡県の経済規模は、人口、県内総生産をはじめとして多くの指標で「全国第 10 位」、数量的に占める割合はほぼ 3 %で、全国の「3 %経済」と言われている。

また、本県経済は「日本経済の縮図」とも言われ、輸出型産業が多い構造となっている。